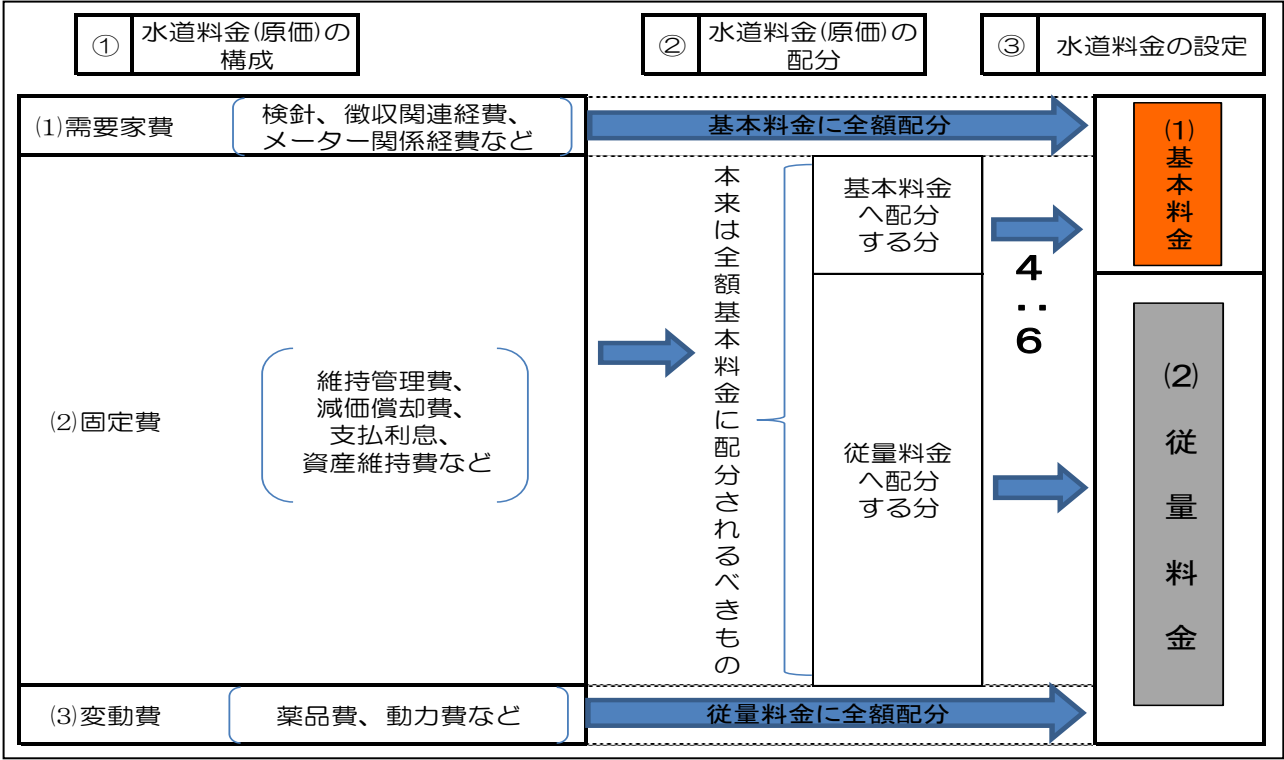


②水道料金の体系

1. 水道料金の基本料金と従量料金について



①水道料金(原価)の構成

- (1) 需要家費 ・ ・ ・ 使用水量に関係なく使用者(需要家)の存在により発生する費用
※水道メーターの購入費、検針や料金徴収に必要な費用等
- (2) 固定費 ・ ・ ・ 使用水量に関係なく施設の維持に固定的に発生する費用
※維持管理費、減価償却費、支払利息等
- (3) 変動費 ・ ・ ・ 水道の実使用量(給水量)に伴い発生する費用
※薬品費、電気代などの動力費等

②水道料金(原価)の配分

(1)基本料金

水使用の有無にかかわらず定額で徴収される料金

1. 需要家費
2. 固定費の一部【配分方法(施設利用率による比率)】

(2)従量料金

使用水量に単価をかけて算定し徴収される料金

1. 変動費
2. 固定費の一部【配分方法(施設利用率による比率)】

③水道料金の設定

基本料金 4 : 従量料金 6 ⇒ 【出雲市の現状】基本料金 3 : 従量料金 7

2. 出雲市の水道料金体系について

【課題点】

(1)基本料金と従量料金の収入割合

〔全体平均〕基本料金 3 : 従量料金 7 (平成 29 年度決算見込)

- ・使用水量は、今後も減少傾向にあり、これに比例して従量料金収入も下がることが見込まれる。
- ・基本料金の割合を高めて、従量料金とのバランスを見直し、経営の安定性を保つ必要がある。

(2)供給単価と給水原価(原価割れ)

- ・供給単価 ・ ・ ・ 使用者からいただく 1 m³あたりの平均単価
- ・給水原価 ・ ・ ・ 1 m³作るのに必要な経費

	平成 28 年度 (決算)	平成 29 年度 (決算見込)
供給単価	1 6 0 円	1 6 0 円
給水原価	上水道 1 3 4 円 簡易水道 5 2 8 円	1 6 7 円

【水道料金体系の基本的な考え方】

水道料金の確保(3 億円程度増収)を前提とし、料金体系の課題については、基本料金と従量料金のバランス、平均改定率と口径別区分の改定率等との整合性を図りながら見直し、今後も引き続き検討する。

(1)基本料金と従量料金のバランス改善

- ①基本料金と従量料金の収入割合のバランス改善のため、特に大口径(100 mm 以上)については基本料金を大幅に見直す。
※他市町と比較すると、特に大口径の基本料金は安価な状況にある。
- ②従量料金は、平均的な改定に努める。ただし、大口径については、基本料金を大幅に改定することから、従量料金を踏まえた改定率を平均改定率程度となるように考慮する。

(2)給水原価割れとのバランス

全ての基本料金及び従量料金単価を給水原価以上に設定すると、一般家庭の水道料金が高騰することから、これを考慮した料金改定とする。(給水原価を下回る料金単価も生じる)